

第4回（仮称）新青森市屋内グラウンド整備に係る有識者会議 議事要旨

- 日時 令和7年11月19日（水）14時00分～15時00分
- 場所 中央市民センター3階 中会議室（2）
- 出席委員（6名）
一般財団法人 青森市スポーツ協会 理事長 柿崎委員
一般社団法人 青森県建築士事務所協会 専務理事 澤田委員
公立大学法人 青森県立保健大学 健康科学部 教授 篠原委員（座長）
NPO法人 青森県障害者スポーツ協会 理事長 高杉委員
青森商工会議所 副会頭 森委員
公益社団法人 青森観光コンベンション協会 専務理事 六角委員
- 欠席委員（2名）
青森市スポーツ推進審議会 委員 斎藤委員
青森市町会連合会 会長 佐々木委員
- 案件
・（1）スケジュール・整備手法について（資料1）
・（2）規模・機能の検討結果（案）について（資料2）

1 事務局説明

- ・案件（1）について資料に基づき事務局より説明（資料1）
- ・案件（2）について資料に基づき事務局より説明（資料2）

2 委員からの意見聴取・質疑応答

【スケジュール・整備手法について】

（篠原座長）

- ・「①設計施工分離（従来方式）」から「⑤PFI」までの整備手法がある中で、検討結果としては、「①設計施工分離（従来方式）」を基本とするということはよろしいか。

（事務局）

- ・そのとおりである。

（柿崎委員）

- ・建設費については記載されていないが、「①設計施工分離（従来方式）」の整備手法においては、リーズナブルな予算で建設ができるということになるのか。

（事務局）

- ・建設費については、新しいサンドームに必要な規模や機能などを基に、今後、市として、どれくらいの事業費がかかるのかを議論していくが、「整備手法の比較」の「コスト削減効果」の部分においては、設計及び工事、さらには管理運営までを一体的に発注したほうがコストは低くなる。

(澤田委員)

- ・整備手法については、事業の成否を決する重要な要素であると認識しており、やはり青森市において検討・判断してもらうべき性質のものと考えている。したがって、有識者会議として、こういうものがいいのではないかといった提案は差し控えるべきものであるのかなというのが私の考え方である。
- ・その上で、建築的な視点から、私の経験に基づいて話をすると、前回の有識者会議において説明があつたつがる克雪ドーム及びしもきた克雪ドームについては、いずれも半島振興を目的に県が整備して、五所川原市、むつ市に譲渡した施設であり、両施設ともDB（設計施工一括）方式により整備している。また、両施設とも膜構造を採用しており、こういった大規模な空間を有するスポーツ施設においては、屋根の軽量化等を図る目的で往々にして膜構造が多く採用され、新屋内グラウンドについても、膜構造が採用される可能性が非常に高いのではないかと思う。
- ・つがる克雪ドーム及びしもきた克雪ドームにおいてDB方式を採用した背景には、膜構造に関するノウハウを施工業者が有しており、そのノウハウをうまく設計に反映させるため、DB方式がいいのではないかといったことで採用されたと記憶している。ただ、かなり古い話であるので、今が同じかどうかと言われれば、分からぬ部分もあるが、当時としては、そういった背景があつた。
- ・今回、「①設計施工分離（従来方式）」がいいのではないかということだが、市でも指摘している入札不調リスクについて、報道等で、大きな施設において、入札の不調が発生していると聞いており、どうも建設費の上昇が事業の隘路になつてゐるところがある。設計施工分離を採用する際に、どうしても予定価格が施工に見合う形で、予算も含めて、可能であるのかというところが大きなリスクであるのかなと考えている。そういうリスクを適正に評価してもらうことが非常に重要なのではないかというのが私の考え方である。
- ・本事業については、大規模であり、また、特殊性もあることから、大手の設計事務所や施工業者などの力を借りなければ、なかなか実現が難しいが、地域の力も活用できるような整備手法を検討してもらえばと思う。

(高杉委員)

- ・現在の建設業界の状況を見ると、人材の不足や資材の高騰などがあり、また、技術的な難しさもあるとは思うが、現在の屋内グラウンド解体工事が令和12年4月と決まっており、そうなると、例えば、DB（設計施工一括）などの方式でいくと、新しいサンドームの開館時期が1年、2年ずれてしまうということになれば、利用できない期間が増えてしまう。利用者からすると、利用できない期間はなるべくなくしてほしいと思うので、その点については、いろいろと検討してほしい。

(森委員)

- ・「①設計施工分離型（従来方式）」、「②基本設計DB（設計施工一括）」及び「③実施設計DB（設計施工一括）」については、価格変動や人材不足などによる入札不調リスクにおいて「○」や「△」となっているが、期間が発注してから建てるまで数年かかる中で、全くリスクがないということはあるのか。

(事務局)

- ・リスクが全くないというものはない。「②基本設計DB（設計施工一括）から「⑤PFI」の方式において、入札不調リスクの評価が「○」となっていることについては、早い段階で業者を決め、価格も設定できることになる。それに対して、「①設計施工分離（従来方式）」であると、まず設計をして、それが出来上がってから工事の発注になるので、その間に、人材の不足であったり、資材の価格が上下するというリスクについて、設計から工事の発注までの期間がある程度、空くという意味で、リスクが高くなる。

(森委員)

- ・ただ、いろんなお客様から聞く話によると、「②基本設計DB（設計施工一括）から「⑤PFI」の方式において、例えば、3年かかる資材や人材の確保について、単年度契約になっているという話を聞いている。価格についても、今年、資材を注文するときは1万円だったが、その次の年、2万円になったとすれば、それは2万円でお金をもらえるというような話を聞いている。その点について、我々は素人なので分からぬが、建築の専門家からすると、どうか。

(澤田委員)

- ・一般的には、複数年設計・複数年工事となると、当初に一括で契約をするのが普通であると思う。その上で、価格が想定していたものよりも急上昇し、最初に決めた金額ではできなくなり、社会情勢上やむを得ないと認められれば、増額することとなる。もしくは、価格が下がれば、双方の協議によるが、発注者側が減額するということになると思う。なので、何年もかかるような工事において、単年度で区切って、工事をすることではないと思う。

(森委員)

- ・それでも、やはりリスクは存在するということか。

(澤田委員)

- ・当然、リスクはある。

(森委員)

- ・資材の価格が上がり、それに応じて引き上げになっていくとなると、契約した段階の価格は保証されないのか。

(澤田委員)

- ・一般的には、発注者からすると、契約した段階の価格が保証されていると考えると思う。
- ・事業者も、ある程度リスクを見込んで、完成形を目指すと思うので、想定を明らかに超えるような物価上昇等が生じる以外であれば、契約した段階の価格でいいのではないかと思う。
- ・「①設計施工分離（従来方式）」の入札不調リスクについては、設計して出てくる予定価格が施工するに見合った金額になっているかというところが、やはり設計と施工を分けることで少し難しい。資材の価格の上昇もあるが、最近の情勢において、実際の施工に見合った予定価格が見えるかなと思っている。

(森委員)

- ・いずれにしても、リスクがないということはないということか。

(澤田委員)

- ・そのとおりである。

(森委員)

- ・そうであれば、私の意見としては、市で検討した整備手法及びスケジュールでいいと思う。

(六角委員)

- ・スケジュールについては、非常にスピーディーなスケジュール感であり、これを守ってもらえばいいかと思う。
- ・整備方法については、先ほど、澤田委員から、この有識者会議として、結論を出すべきではないのではないかという話があったが、結論を出さなければ、前に進まないと思うので、その点については、篠原座長にお任せをして、やっていただければいいのかと思う。
- ・市の考え方としては、「①設計施工分離（従来方式）」を基本とするとなっているので、それがいいのではないかとは思うが、先ほど問題提起があった部分については、もう少し議論が必要であるかと思う。

(篠原座長)

- ・私が「スケジュール・整備手法について」の資料を見たときに思ったこととしては、やはりスケジュールを優先させるのか、コストを優先させるのかといったところが重要であり、この点を有識者会議で決めるることは難しいと思っている。
- ・ただ、今回のサンドームの移転に当たり、知事と市長が話をしたことについて、前回の有識者会議において、話があったと思うが、その際には、まず、やはりシームレスに市民が運動できる環境を作るというところがあったので、大きな問題がなければ、シームレスというところを重要視してもいいと個人的には思っており、「①設計施工分離（従来方式）」が優先されてもおかしくはない感じている。
- ・現実的なところとして、先ほど、澤田委員から意見があった判断材料等もあると思うので、市において、いろいろな形で検討し、決定してもらうという流れがいいかと思うが、よろしいか。

(委員一同)

- ・はい。

(篠原座長)

- ・本日、欠席された委員の二人から、この点について、意見等はあったか。

(事務局)

- ・本日、欠席している斎藤委員及び佐々木委員に対して、事前に資料を確認の上、意見をもらいましたが、スケジュール・整備手法について、異論はないということでした。

【規模・機能の検討結果（案）について】

（篠原座長）

- ・「規模・機能の検討結果（案）について」の資料について、とても丁寧に書かれており、今まで話し合われたことが網羅的に盛り込まれているように感じる。
- ・内容については、このままで特に異論はないが、救護室に関して、単純に機能だけを考えれば、4畳半ぐらいの広さを想定する。前回の有識者会議のときに、六角委員から授乳室という意見が出たときに必要であると思ったように、例えば、5年後、10年後、こういう機能が必要だという意見が出てくる可能性が十分、考えられる。そこで、救護室を現実的な範囲で少し広げるなどして、その時々に合わせて、こういう機能が必要であるという話になった時に対応できるようなスペースがあつたほうがいいと思う。私は理学療法士という仕事柄もあり、医療従事者が、高齢者の方々に対して、何か対応するということが考えられるように、そこで利用者からニーズがあつた時に対応できるようにという提案である。

（柿崎委員）

- ・現在のサンドームについては、かまぼこ型になっており、ドームに対して、すごくいい印象を持っているが、新しい屋内グラウンドの形については、どのようになるのか。

（事務局）

- ・新しい屋内グラウンドについては、元々は屋外で行う野球やサッカー等を想定したグラウンドになるので、屋根は高く取っておかないと、普段、屋外で行っているスポーツへの対応が難しいと思っており、他の事例においても、大体、ドーム型となっている。ただ、現在のサンドームについては、幅が50m×100m程度で、かまぼこ形になっておりますが、屋根は、やはり少し高めに設定するものと想定しているが、今時点で決まっているものはないので、設計段階で決めていく。

（柿崎委員）

- ・新しい屋内グラウンドの形については、今後、設計段階において、検討すると思うが、今まで親しんできた関係から、ドームがいいという感じがする。
- ・観覧者のためにパイプ椅子などを準備するということであるが、これは非常にありがたい対応である。観覧者にとって、立ち席であれば、ジョギングするコースを使って見るということになると思うが、パイプ椅子などが使えるように、格納する場所について考慮してもらえば非常にありがたい。
- ・ジョギングコースを利用する人たちは、高齢の方が多いと思うが、できれば料金はリーズナブルにしてほしい。屋内グラウンドの料金も、できれば安くしてもらえば、やはり利用する時間も長くなると思うので、そういうところにも配慮してほしい。
- ・受付などをする事務室についても、できれば少し広くして、事務をする方々には、余裕のあるスペースを使ってほしい。現在の事務室は、机を並べると、ちょっと狭いという感じがするので、設計段階において、考慮してほしい。
- ・現在のサンドームには、青森市スポーツ協会の事務局の部屋があり、移転する際に、同じくらいのスペースでもいいので、検討してほしい。
- ・全体的に、バリアフリーやユニバーサルデザインなど、たくさん的人に気持ちよく使ってもらうことをコンセプトに置いて、今後、対応してもらえば、非常にありがたい。

(高杉委員)

- ・駐車場について、今、雪が降り、また、風も強い時期があり、私のように車椅子に乗っている人からすると、風でドアが引っ張られて、乗り降りがすごく大変であったり、乗り降りの間、ずっと雨や雪に晒された状態になってしまうので、できれば入り口には、そこで乗り降りできるように屋根を設けてもらいたい。また、ソフトボールや野球、サッカーなど、いろいろな団体の人たちが来て、子どもたちがそれぞれ駐車場を歩きながら来ると、やはり交通事故のリスクもあると思うので、マイクロバスなども屋根の下で停車して、子どもたちが安全に降りて、濡れないで用具も降ろせるよう、入り口には大きめの高い屋根がほしい。

(澤田委員)

- ・駐車場について、融雪ということが記載されていたが、実際の運用を考えると厳しいかなという感じがする。
- ・「ジョギングコースから外が見えるように」という記載がある。これはアンケートへの回答の中にあり、ぜひ採用したいということであると思うが、現在のサンドームを見ると、ジョギングコースは2階にあり、そこから膜が立ち上がっているので、外が見えない。ただ、赤い屋根が架かっているほうにおいては、外が見える。そのような形式であれば、外が見えるように計画できると思うが、計画の仕方であると思う。どうしても外が見たいがために、そこに部屋が設けられないといったことも考えられるので、そこは上手に計画してもらえば、いいと思う。あまりにもこだわりすぎると、ちょっとお金がかかると思う。

(篠原座長)

- ・人工芝のグラウンドについて、空いているときに、個人利用ができないかと思った。人工芝については、分割して使用するという話であったが、そこでのんびり過ごすという感覚もあってもいいと考えており、それは交流という理念に関係してくる。いろいろ形で市民が使えるものができるという感覚でいくと、そういう使い方もいいと思う。現実的な範囲内で、いろいろと自由度が高く使える施設であったらいいと思う。
- ・この場で、こういうものがあつたらいいという意見を言うことは、我々しか言えない状況であるので、最後に澤田委員が言ったことがとても重要であると思う。現実的に、いろいろな意見の中で、コストも踏まえながら、現在、すごくいい案ができてきていると思うので、引き続き、検討してもらいたい。